

# 横断歩行者注意喚起システム 実証社会実験

## 実験の主旨

より安全な交差点を目指して、今後日本で展開が望まれている歩行者の安全対策についての社会実験に取り組んでいます。

横断歩道部において、横断歩行者感知式注意喚起システム（発光鋏）を設置し、安全性向上の効果について検証を行います。

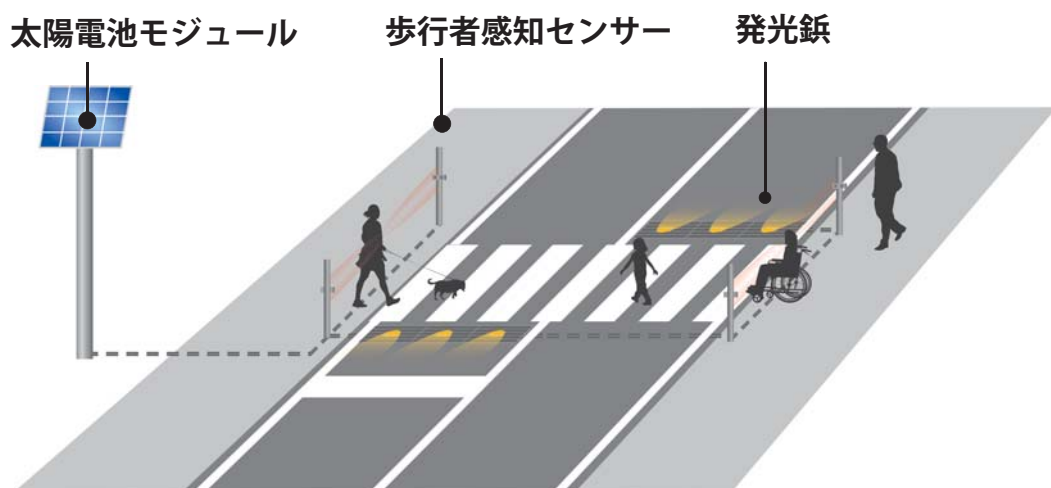
## 実験の期間

11月7日（月）～1月12日（木）（67日間）

## 実験の概要

### ●実験のイメージ

センサーが歩行者を感知すると、路面に埋め込んだライト（発光鋏）が点滅し、ドライバーと横断歩行者に注意を促します。



### 【実験内容】

●発光鋏の設置による挙動変化の観測  
発光鋏の設置によって、接近車両の速度や横断歩行者の安全確認の動作がどう変化するかを観測します。

●システムそのものの性能等の検証  
発光鋏の点灯のタイミング・間隔・照度などの各種設定による視認性や施設自体の耐久性を検証します。

### 【実験方法】

ビデオ観測調査や試験車両による走行調査を行い、実験前との車の流れや速度変化などのデータを観測します。

### ●夜間の点灯イメージ



実験箇所については裏面をご覧ください

# 実験の体制

## 【実施機関】

- 飯田市
- (公財) 国際交通安全学会 (IATSS)

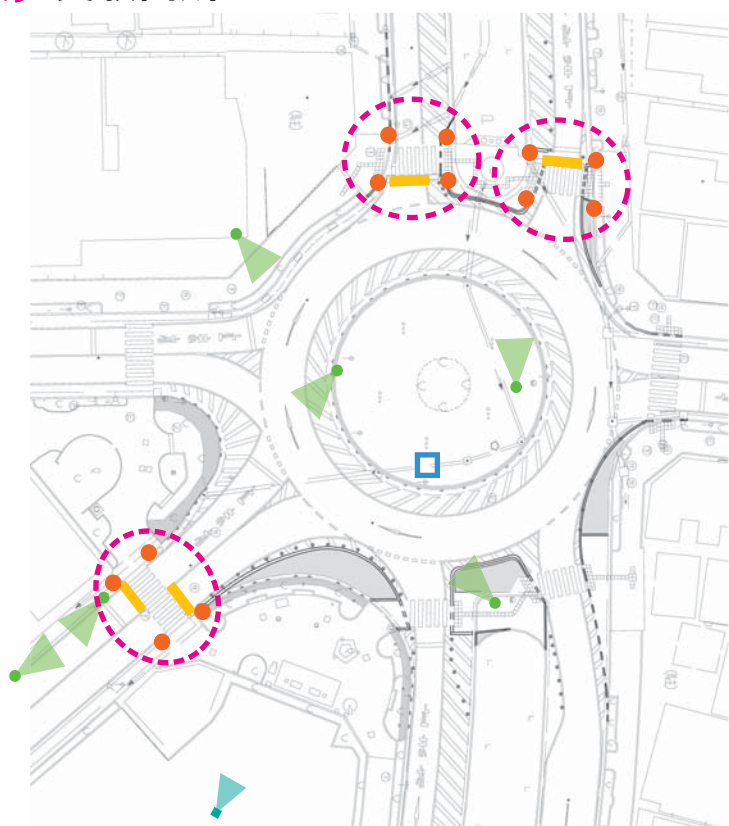
## 【参画機関】

- 国土交通省国土技術政策総合研究所 ITS 研究室

## 【協力企業】

- (株) キクテック : ■ 発光鋏 ● 歩行者感知センサー
- 三菱電機(株) 中津川製作所 : □ 太陽電池モジュール (電源)  
(飯田市環境配慮型製品「ぐりいいんだ」として認定された製品を貸与)
- (株) 飯田ケーブルテレビ : ◀ 実験映像の記録、配信 (ライブカメラ)
- (株) 道路計画 : ▶ ビューポールカメラ
- (株) オリエンタルコンサルタンツ : 調査実施
- (株) 長大 : 幾何構造設計

## 実験箇所



- 横断歩道発光鋏  
: 横断歩道端部から見て右側(車両接近側)に設置
- 横断歩行者感知センサー  
: 横断歩道出入口付近に設置
- 太陽電池モジュール  
: ラウンドアバウト中央島に設置
- ◀ ライブカメラ  
: ラウンドアバウト南西側に設置
- ▶ ビューポールカメラ  
: ラウンドアバウト周辺に約 10 基設置

## 公益財団法人 国際交通安全学会 (IATSS) について

(公財) 国際交通安全学会 (会長 小口 泰平: 芝浦工業大学名誉学長) は、さまざまな専門分野の研究者・学識経験者が交通社会の現状および将来のあり方について自由に討議・研究する場として、本田技研工業(株)の創業者である本田宗一郎、藤澤武夫両氏による基金をもとに、昭和 49 年に設立されました。

当学会は、理想的な交通社会の実現に寄与することを目的として、交通およびその安全に関する研究調査、シンポジウムの開催、広報出版活動、研究・教育その他の活動に対する褒賞、国際交流活動など、時代の要請に即応した事業活動を展開しています。

そのうち、研究調査活動は当学会のもっとも基幹となる活動で、平成 23 年度は現在 12 テーマの研究調査が行われており、そのうちの 하나가、「安全でエコなラウンドアバウトの実用展開に関する研究」です。今回の、吾妻町ラウンドアバウトにおける社会実験は、この研究の一環として行われています。